

視察研修・研修会等報告書

議席番号（ 5 ） 議員名（ 小林 勇治 ）

1 平成30年11月14日（水）～16日（金） （日数 2泊3日）

2 場 所

- （1）14日（水）山口県長門市
- （2）15日（木）山口県萩市
- （3）16日（金）島根県浜田市

3 視察、研修事項

- （1）長門市・・・本庁舎建設事業の取り組みについて
- （2）萩市・・・旧小学校跡地活用事業の取り組みについて
- （3）浜田市・・・住民参加型市場公募地方債・浜田きらめき債の取り組みについて

4 面 接 者

各、視察研修・研修会の成果に記載

5 視察研修、研修会の成果

（1）長門市

人口35,439人、面積357.31km²、人口密度98.51人/km²

本州の最西北端、山口県の西北部に位置する長門市。東は萩市、南は下関市、美祢市に接し、北側には北長門海岸国定公園に指定される美しい日本海の風景が広がっています。

この土地が長門国大津郡として成立したのは、大化改新により国郡里制が構築された7世紀後半といわれています。江戸時代には長州藩下で前大津と先大津の両宰判に分けられ、明治に入ると大小区制により区分されました。その後、郡制復活や市制・町村制施行、昭和の大合併などの編制を繰り返し、旧長門市、

大津郡三隅町・日置町・油谷町となり、その1市3町が平成17年3月22日に合併し、長門市としてスタートしました。（長門市ホームページ、市の概要より）

油谷日置（ゆや・へき）エリアには元乃隅稻成神社があります。



仙崎エリアには童謡詩人金子みすゞ記念館があります。金子みすゞ（本名は金子テル、1903年～1930年）童話童謡雑誌が隆盛を極めていた大正時代末期の童謡界に彗星の如く現れ、ひとときわ光を放ちました。（長門市、観光案内冊子より）

面接者

長門市役所 企画総務部 総務課 庁舎建設準備室 室長 太田哲也

同じく

主査 宇野英樹

長門市議会事務局 次長 岡田年生

<研修テーマ>

○ 本庁舎建設事業の取り組みについて

【新庁舎建設の経緯】

平成15年10月 本庁舎耐震第一次診断 震度5以上の地震で倒壊の恐れがあると診断

平成17年3月 合併による長門市誕生 1市3町(旧長門市、大津郡三隅町・日置町・油谷町)

平成21年11月～24年1月 長門市庁舎改築検討委員会設置 4回の検討委員会を開催し、「本庁舎については、南側駐車場に建替えを検討」するよう市長に報告。

平成26年4月 同検討委員会 平成26年8月「庁舎改築検討報告書」を作成

平成27年8月 設計者選定 公募型プロポーザルにより決定

平成28年3月 基本計画策定 長門市庁舎建設基本経計画策定

平成28年9月 基本設計完成 長門市庁舎建設基本設計書完成

平成29年3月 庁舎建設に係る地域産木材調査・加工計画及び保管計画策定

平成29年6月 木材加工等契約

平成29年7月 発注方針公表

平成29年9月 実施設計完成

平成29年10月 入札公告

平成29年12月 建設工事契約

平成30年1月 起工式

【長門市庁舎建設基本構想】

基本理念 市民（みんな）の「安全・安心」の拠点として、利用しやすく親しみのある庁舎

基本方針1 市民の暮らしを守る庁舎 ・防災機能の確保

基本方針2 利用しやすく親しみのある庁舎 ・長門市らしさの発信

・機能的で効率的な構造と空間 ・木材利用の促進

基本方針3 人にやさしい庁舎 ・ユニバーサルデザインに配慮した庁舎

・窓口サービスの充実 ・市民交流スペースの充実

基本方針4 ICT化へ対応した庁舎 ・ICT技術の有効活用

基本方針5 環境配慮型庁舎 ・ランニングコスト縮減、環境に配慮した庁舎

【長門市らしさを発信し、市民に親しまれる庁舎とは】

- ① 地域産木材の活用 ・内外製材に加え、構造材に木材を使用できないか
- ② 地域への経済波及効果 ・地元で木材の製造から加工までを実施できないか ・地元の技術を庁舎建設に活用できないか
- ③ 市民の誇りとなる庁舎 ・全国初となる先導的な庁舎建設を目指すこと。 ・木造庁舎建設のモデルプロジェクトとして全国に発信できないか

【木造庁舎建設を実現するための課題】

課題① 5,000^m（原木ベース）の木材を建設工事までに市内で調達し、製材して納材することが可能か ◆木材+RC造のハイブリット構造を採用することにより必要木材量 5,000^m→2,300^mに削減 平成28年～30年度 市有林更新伐、搬出間伐事業から発生する木材で調達可能

課題② 構造を木材にすることにより、庁舎機能に制約が生じるのではないか ◆木造+RC造のハイブリット構造に免震構造を組み合わせることにより約12mの無柱空間が可能、可能性のあるフレキシブルな庁舎を実現

課題③木材を採用することにより、過大な事業にならないか ◆サステナブル建築物等先導事業補助金を活用 採択決定額 5.8億円により一般財源の増加を抑制

【構造計画の検討】

■ 5階建て延床面積7000㎡超の木造庁舎を実現する構造計画検討

結果 木造+RC造のハイブリット構造・免震構造を採用

建築現場の視察



《所感》

庁舎の耐震強度が不足していることにより、庁舎建替えの必要が生じた課題に対して、検討委員会を設置して取り組まれた。そして建替え方針を決定。建築に当たり、地場産木材を活用した木造建築を選定し、そのことによる地元への経済効果を目指しての建築であるとの説明も伺った。とても大切な点であると受け止めた。大きなプロジェクトを実施する場合の、地元への経済効果を十分に検討することが大切と感じました。

(2) 萩市

人口49,560人 面積698.31㎢ 人口密度70.67人/㎢

歴史は、古くは日本書紀にも見られる長門国の五郡の一つ「阿武郡」にさかのぼります。10世紀前後には長門国阿武郡は周防国とともに後白河院の知行する阿武御領と呼ばれるようになり、東大寺の再建の際には東大寺造営料国として用材の切り出しが行われ、阿武川・大井川流域にはそれにまつわる言い伝えも残されています。

慶長9(1604)年、居城を広島から萩に移した毛利輝元は、三角州に城下町を建設し、以来、廃藩置県に至るまでの260年余り、毛利36万石の城下町として、発展しました。幕末には、吉田松陰など明治維新の原動力となった人材を数多く輩出しました。

明治に入り、萩藩と徳山藩が統一され、山口藩となり、山口・豊浦・岩国・清末の4藩が山口県として統合されました。

明治22(1889)年の「明治の大合併」では、阿武郡内に22の町村が誕生しました。その後、いくつかの町村統合がなされ、昭和30(1955)年には「昭和の大合併」が行われました。この2つの市町村合併により、現在の萩市の基となった旧萩市・川上村・田万川町・むつみ村・須佐町・旭村・福栄村が編成され、平成17(2005)年3月6日には、この1市2町4村が合併し、新「萩市」となり現在に至っています。(萩市ホームページ 歴史 より)

面接者

萩市 議会事務局 事務局長 濱村祥一

議会事務局 調査係長 太田泰之

観光政策部 萩・明倫学舎推進課 課長 国光博基

○「旧小学校舎跡地活用事業」の活用について

■施設概要 明治維新150年記念事業の一環として、全国屈指の規模を誇った萩藩校明倫館跡地に建つ日本最大級の木造校舎（昭和10年建築）を保存改修し、「萩・明倫学舎」として平成29年3月4日に開館。

萩・明倫館は、萩観光の起点として、また、松下村塾とともに明治維新の原動力となった萩藩の人材育成を担った萩藩校明倫館の流れをくみ、萩教育の原点となった学びの場として整備。

■旧明倫小学校保存整備事業（平成26年～28年度）

◆事業費（本館・2号館・周辺）：約14億1000万円

財源内訳：国庫補助金 約4億1000万円

地方債（合併特例債）約5億4千万円

基金繰入金 約4億円

一般財源 約6千万円

■来場者数 ◆平成29年3月4日～平成30年3月31日

【本館】約33万8千人 【うち2号館】約11万4千人

◆平成30年4月1日～平成30年10月31日

【本館】約15万8千人 【うち2号館】約5万4千人

館内視察



萩・明倫学舎 藩校跡に建つ日本最大の木造校舎が萩の新たな観光起点になる。全国屈指の規模を誇った、藩校明倫館。その跡地に建ち、近年まで授業が行われていた旧明倫小学校校舎が、新たな萩の観光起点「萩・明倫学舎」としてオープン。藩校の貴重な遺構と、跡地にたつ日本最大の木造校舎には、あなたに伝えたい物語があります。

■本館【無料】（昭和10年建築：国登録有形文化財）萩の観光はここから！観光のインフォメーションセンターと萩藩校明倫館から旧明倫小学校までの300年の歴史にふれる。

- ◇ジオパークビジターセンター：維新と胎動の地・萩のジオめぐりの出発点
- ◇観光インフォメーションセンター（本館1F）・案内スタッフに加え各種観光パンフレット完備・インターネット利用可能 ・12面マルチの大画面による萩の見どころを紹介 ・観光の出発点に便利、手荷物のお預かり・コインロッカーを無料提供 ・喫茶コーナーや自動販売機もあり、ちょっとした休憩場所にも最適
- ◇復元教室（本館2F）多目的復元教室（本館1F）・昭和30年代の教室を

再現（復元教室） ・ミュージカルや紙芝居などのイベントも開催（多目的復元教室） ・会議等にも使用可能

◇萩藩校明倫館展示室：幕末から維新にかけて多くの優秀な人材を生み出した萩（長州）藩。その人材育成の背景なる萩（長州）藩の教育制度の特徴を、萩藩校明倫館を中心に全国的な観点をふまえて紹介。

■2号館【有料】（昭和10年建築）萩の5資産を含む世界遺産「明治日本の産業革命遺産」を紹介する『世界遺産ビジターセンター』と幕末・維新を科学技術史の視点で紹介する『幕末ミュージアム』を開設。

◇幕末ミュージアム（小川コレクション） 幕末ミュージアムでは、日本でも有数の収集家である小川忠文（下関在住）から萩市に寄贈された江戸時代の歴史・科学技術史6000点を超える資料のうち、特に貴重な実物資料約600点を展示。これらの資料は、幕末維新動乱期に使用されたゲベール銃・エンフィールド銃などの鉄砲類や武具類などの軍事関係資料、江戸時代に日本で最初に作られた天文成象図（星図）など天文関係資料、エレキテルと称する電気式医療器具などの医学関係資料など、その貴重さ、その展示数において日本屈指の、他に類を見ないスケールとなっている。

■旧明倫小学校保存整備事業（平成26年～28年度）

◆事業費（本館・2号館）・周辺）：約14億1000万円

財源内訳：国庫補助金 約4億1000万円 地方債（合併特例債）約5億4千万円 基金繰入金 約4億円 一般財源 6000万円

■施設管理体制

◆NPO萩明倫学舎との協働による管理体制 約20人/日 会員数85名

◆維持管理予算：歳入3200万円 歳出9800万円（H30）

◆テナント（カフェ・レストラン萩暦＝市内料理店が運営）賃料10万円/月

◆萩・明倫学舎推進課とジオパーク推進課

■来場者数等

◆平成29年3月～平成30年3月31日 本館約33万8千人 内2号館約11万4千人

◆平成30年4月1日～平成30年10月31日 本館約15万8千人 内2号館約5万4千人

《所感》

歴史的木造建築を保存し有効活用された取り組みはとても良いと思います。歴史建造物を壊してしまうのはもったいないです。明倫小学校は萩市に1校の小学校で3000人からの児童がいたとのことでした。そして4年前まで使用していたとの事でした。萩市民の誇りを感じました。本市においても郷土愛と郷土にたいする誇りをもてる人材育成が大切であると感じました。

(3) 浜田市

人口58,105人 面積690.68km² 人口密度80.24人/km²

面接者

浜田市議会 議長 川神裕司

浜田市議会事務局 庶務係 係長 鎌原浩治

主任主事 田中真佐子

浜田市 財務部 財政課 財政係 主任主事 羽部和哉

主任主事 小驛杏子

○浜田きらめき債

浜田市の概況

■市町村合併 平成17年10月1日 (1市3町)

■予算規模 一般会計395億円 (平成30年度当初)

■標準財政規模 約204億円 (平成29年度決算)

■財政力指数 0.401 (3か年平均・平成29年度決算)

■経常収支比率 90.9 (平成29年度決算)

■実質公債費比率 10.1% (3か年平均・平成29年度決算)

■将来負担比率 72.3% (平成29年度決算)

■市債発行額 平成28年度 46.0億円 平成29年度 40.2億円

浜田きらめき債について①

平成17年10月1日合併により新浜田市誕生

■発行にいたる経緯

①合併後、浜田駅北地区整備やケーブルテレビ整備と言った、地方債の充当に適した大規模なハード事業を控えていた。

② 成19年度決算で、実質公債費比率が25.1%と極めて厳しい財政状況であったため、これを早急に改善する必要があった。

③ 合併後10年間は、普通交付税の算入にあたり優遇措置をされる「合併特例債」の発行が可能となった。(現在は法改正により、合併後20年間発行可能)

■発行状況及び成果

発行開始：平成18年度～平成27年度(合併後10年間)

発行金額：1億円～2億円

購入対象：市内在住または勤務している満20歳以上の個人

購入限度：100万円/人(10万円単位)

発行条件：5年満期一括償還

■公募債発行のポイント

政策判断：行政への住民参画・意識喚起 税の住民還元

財政的見地：証書発行のコスト>公募発行コスト

将来世代の負担重>現役世代の負担軽

■今後の展望

①低金利による、金融商品としての魅力の低下

②ふるさと納税による、住民の施設参加意識の高まり

《所感》

住民参加意識の喚起としての意味あいがあるとのことであったし、税の住民への還元という金融商品としての在り方も参考になりました。本市において財源の確保は喫緊の課題であります。本事案のような取り組みも一つの参考になるのではと感じました。